

# 臨床感染症学

## 1 担当教員名

【研究指導教授】	教授	三 嶋 廣 繁
【科目担当者】	准教授	浅 井 信 博

## 2 教育目標

### (1) ねらい

感染症は、宿主、微生物、薬物の3つの側面から病態を捉えなければならない。微生物学的見地から、感染症の原因となる細菌、ウイルス、真菌、寄生虫を対象とした病原性発現メカニズムの解析をはじめとする基礎的ならびに臨床的研究を行う。宿主見地から、感染免疫学を軸とした基礎的ならびに臨床的な研究を行う。さらに、薬物見地から、薬物動態学・薬力学を含む感染症治療に関する薬物治療について、基礎的および臨床的な研究を行う。学生は、本研究室が、微生物学的には嫌気性菌およびカンジダ属に関して、薬物治療学的には薬物動態学・薬力学に関して、国際的に評価を受けていることを活かした研究を遂行するのが望ましい。大学院教育を通じて、感染症学および感染制御学に関する幅広い知識、基本的技術の習得を行い、医学研究の社会的意義を理解した将来の指導者を育成することを目標とする。

### (2) 学修の到達目標

- ① 主要な感染症の現状を把握し的確な診断、治療、感染制御を修得できる。
- ② 国内外における医療関連感染の現状を理解するとともに、医療関連感染原因菌の診断とそれらによる感染症の治療・予防等の理解を深めることができる。
- ③ 専門分野の情報収集力と分析力を高めることができる。
- ④ 研究手法を修得し、研究計画を立案できる。
- ⑤ 立案した研究計画にそって研究を実施し一定の成果を目指す。
- ⑥ 問題解決能力および情報発信力を高めることができる。
- ⑦ 研究成果を原著論文として発表する。高い問題解決能力と研究遂行力を備えることができる。

## 3 授業内容

【講義】	感染症の診断および治療、感染制御に必要とされる感染症診断学、感染症治療学、薬物動態学・薬力学、臨床微生物学、臨床感染免疫学、感染制御学の基礎知識および新しい知見について講義する。また、感染免疫の見地から感染症治療に対する東洋医学(漢方医学)の応用についても講義する。
【演習】	実際に得られた基礎データおよび臨床データを基に、関連する研究論文を抄読し、問題点の抽出、研究テーマの立案、研究の進め方について考える。
【実験研究】	感染症の病態解析、新規診断法、新規治療法、予防法など感染症全般にわたって、基礎的および臨床的研究に取り組む。常に、研究成果の臨床現場への還元を目指し、宿主・微生物・薬物の3者の密接な関係に立脚した感染症診療・感染制御に関する研究を実施する。

## 4 成績評価の方法・基準

選択した課題に対する討論、発表、レポート、論文、実験に対する姿勢、臨床的感染症診断・治療能力、臨床的感染制御能力などを総合的に評価する。

## 5 教科書・参考図書

- Harrison's Principles of Internal Medicine
- Clinical Infectious Diseases, Journal of Infectious Diseases, Antimicrobial Agents and Chemotherapy, Journal of Antimicrobial Chemotherapy, Infection and Immunity, Emerging Infectious Diseases, New England Journal of Medicine, Lancet Infectious Diseases, Infection Control and Hospital Epidemiology, American Journal of Infection Control などから最新の文献を適宜指示する。

## 6 準備学習(予習, 復習等)及び必要な時間

準備学習としては、指示した最新の英語論文を読んで疑問点をまとめておく。講義・演習後は、既読の論文に関連した文献を検索し、課題抽出能力および研究計画立案能力を高める。  
1週間に7時間程度の予習・復習が望ましい。

## 7 課程修了・学位授与方針と当該授業科目の関連

規定の単位を取得する。  
英語原著論文が1編以上掲載される。

## 8 課題(試験・レポート等)に対するフィードバック方法

レポートは、評価後返却されるが、内容に不足・誤りがある場合は再提出を求めることがある。  
講義、実習中に疑問点の解説、レポート内容については、個別に指導する。

## 9 履修上の留意点

感染症の診断・治療を主目的とする感染症学と感染症の発症と伝播を予防する感染制御学は車の両輪をなすものであることを理解する。基礎医学から臨床医学へ、臨床医学から基礎医学へというトランスレーショナルリサーチが臨床感染症学・感染制御学においては特に重要であることを理解する。

## 10 オフィスアワー

職名	氏名	曜日	時間帯	場所	連絡先
教授	三 鴨 廣 繁	月火	8:00~8:30	C棟8階教授室	内線 22353
		火	17:30~18:00		
准教授	浅 井 信 博	月~水	10:00~15:00	中央棟2階感染管理室	内線 34253
		木	13:00~15:00		